



令和4年度

看護小規模多機能型居宅介護
はびねす広場

運営推進会議における評価 公表用

〈 運営推進会議における評価 様式例 〉 ※公表用【事業所概要】 コロナ感染拡大防止の為 運営推進会議など開催自粛し「書面での開催」とした為「運営推進会議における評価コメント欄」は白紙とする。(地域包括支援センターにコメント依頼したが会議参加ができなかった為コメント困難の回答あり)

法人名	ハート株式会社	事業所名	はびねす広場
所在地	(〒973 - 8409) いわき市内郷御台境町六反田 78-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

いわき中央インターより車で5分の閑静な住宅街先の坂を下ったところに位置する。一日中日当たりが良く遠くには平の町並みが見え夜景がきれいに映りだされる。近隣の山々は、山桜、緑葉、紅葉と季節ごとに楽しませてくれる。当事業所の庭には山桜や河津桜、桃の木、もみじ等ウッドデッキから眺めることができる。「利用者様が今日を楽しく生き希望を明日へと繋げるようお手伝いします」という理念を掲げ笑顔で実践している。医療ニーズのある方、様々な状態、病状の方々の在宅医療の支援とともに、介護者・ご家族様を含めた総合的な支援を行っている。また、退院しまだまだご自宅の生活に不安のある方、施設入所待ちの方々に対し 24 時間 365 日、状況に合わせ、迅速・柔軟なサービス等、十分な感染防止対策を実施し提供している。今年度は、有事の際にサービス提供が止まることなく継続できるよう BCP 作成し職員間の教育、訓練を計画している。(職員研修・オンライン研修・外部研修などを通し知識や技術の向上に努め積極的に学べる環境を整備している。)

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 8 月 20 日	従業者等自己評価 実施人数	(18) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 10 月 18 日	出席人数(合計)	(5) 人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員 (5) 人 <input type="checkbox"/> 市町村職員 () 人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 () 人 <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 () 人 <input type="checkbox"/> 利用者 () 人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族 () 人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者 () 人 <input type="checkbox"/> その他 () 人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	様々な災害を想定し訓練を強化していく。 事業所の理念を理解し多職種で情報の共有を図り、状況に応じたケアができるよう支援する。	年2回の消防署立ち合いでの防災訓練を予定したが「コロナ感染症拡大防止」の為 自職員のみで訓練を行った。通報、火災、地震、夜間での避難、緊急連絡網の伝達訓練など行う。BCP作成により不足物品は購入し準備した。	災害対策委員が中心となり、訓練はスムーズに行われ問題点は全職員に周知できた。訓練報告は消防署に届けた。毎日の朝夕ミーティング時に「理念」の唱和、情報の共有を行い、不在職員には「申し送りノート」を活用し周知を図る
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	本人・家族の要望に基づきケアプラン・看多機計画を策定する。関係機関、全職員との情報の共有を図り迅速な対応ができるようにする。	定期的カンファレンスを行い全職員で現状の把握、リスクマネジメント等話し合い実践に活かした。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	Web での担当者会議、感染対策を十分に図り少人数での対面会議などで利用者・家族等の状況の把握を行い多職種で情報を共有しケアに活かす	他施設へ入所予定者の実地調査を Web で行った対象利用者様の面談やADL等の確認もスムーズに行われた。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	コロナ感染が終息できれば医療的ケアが必要な方や認知症の方が住み慣れた地域で生活ができるよう看護小規模多機能型居宅介護の各サービスを知って頂けるよう地域での繋がりを深めたい。	コロナ感染状況を見ながら地域との交流を図る。事業所内の各行事には呼ぶことができなかったが、敬老会での「祝い饅頭」をイベントの衣装をつけ届けた。事業所職員の作成した新聞を届け事業所内の情報提供を行った。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	日々の健康管理やご本人の変化に気づき出来るだけ入院せず療養生活が継続できるよう多職種で連携を図る。	利用者の状況を常に観察し異常があれば看護師に伝え主治医と連携し早々に治療に繋ぐことができた。	夜間の変化も見逃さず24時間看護師の指示を受けられることができ多職種との連携がスムーズに行われた。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	ミーティングノートや申し送りノートを活用し職員間での情報共有が図られ実践に活かされた。多職種で各 BCP の必要性を把握し作成に着手している。各委員会が中心になり積極的に防災訓練や感性症対策に臨むことができた。	各 BCP の作成が完了し訓練ができる体制を整え実践できるよう職員一丸となって有事に備える。各職種間の連携、スムーズなコミュニケーションにより情報の共有を強化する。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	日々朝夕の申し送りや日常生活上において変化があれば早々のケアの見直し主治医との連携などにて状況に応じた柔軟な対応できた。事業所内の勉強会や Web 研修、外部研修等で、知識・技術を高め実践に活かした。	利用者の起こりうる状況変化の予測と、変化の早期発見・早期対応に繋げられるよう看護、介護職員、その他の職員と多職種での情報共有ができる体制を強化する。内外研修、勉強会等定期的な研修を継続し職員の質の向上に努める。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	主治医、薬剤師、歯科医、歯科衛生士、看護師、介護福祉士、ケアマネジャー等多職種他機関との連携支援ができた。緊急時の対応について医療機関と連携し、全職員が対応できる体制を継続する。	多職種との連携により利用者中心としたサービス提供が円滑に行えるようにする。緊急時・急変時の対応をすべての職員が周知できる体制の構築に尽力する。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	「コロナ感染防止」より近隣住民や各会議など開催を自粛したため交流や活動ができなかったが、近隣住民へ各イベントからのプレゼントや職員作成の新聞など施設状況を報告できた。運営推進会議においては、電話により要望や意見等確認し運営状況等含め書面にて報告した。	コロナ禍で地域交流ができないことはあるが、引き続きできる事での施設状況を発信し看護小規模多機能サービスの概要(趣旨・各サービス内容・医療処置等)の十分な理解を得られるよう努める。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	看護小規模多機能事業所としての質の高いサービスが提供できるよう全職員が知識・技術の向上に努めている。24 時間連絡体制ができ利用者の変化時看護師のアドバイスを受けながら大事に至らず対応できた。	ACP 用紙の活用で利用者・家族の予後予測への考えを共有することで将来起こりうるリスクを想定しその方の望む暮らし方に添えるよう努める。全職員が看護小規模の役割を理解することで、質の高いサービスが提供できるよう努める。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	2	11	5			<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	3	11	4			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	4	8	5	1		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] ・年度初め自己目標を立案し目標に向けてモチベーションの向上に努めている。 ・各職員の知識・技術の状況に応じた個別計画ができていない。早々に計画立案予定である。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	3	12	1	2		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・各研修の年間計画があり知識・技術の向上に努めている。 ・感染対策を十分に行い福祉用具の職員により福祉用具の正しい使い方やオムツの説明等の研修を行った。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	6	11	1			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
<p>〔具体的な状況・取組内容〕 朝夕のミーティング時に多職種で情報の共有が図られている。不参加職員には申し送りノートの活用で全職員情報の共有ができています。</p>							
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	1	12	5			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
<p>〔具体的な状況・取組内容〕 「コロナ感染拡大防止」により対面での開催はできず、事前に意見・要望・助言等を確認し書面にての開催とし内容を各機関・不参加者に配布している。</p>							
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	6	9	2	1		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
<p>〔具体的な状況・取組内容〕 ・定期的に就業規則の見直しが行われている。 ・家族を含め急な体調不良時でも安心して休めるようシフト調整を柔軟に行っている。</p>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	6	12			<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>	
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 支援内容の変化や変更があった際には随時速やかに朝夕のミーティング時に話し合い、状況把握し多職種間で共有している。申し送りノートに記載し再確認できるよう活用している。</p>					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	3	14	1		<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>	
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> ヒヤリハット・事故報告を共有し再発防止に努めている。車両にはドライブレコーダーを搭載し交通安全への意識向上に繋げ、事故発生時には早々に検証を行い再発防止に努めている。各種事故項目について社内研修が行われている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	2	13	3			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
<p>II サービス提供等の評価</p> <p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</p> <p>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</p> <p>① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施</p>							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	2	12	4			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種間で共有されている	3	13	2			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	2	12	4			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		16	2			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	2	14	2			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
<p style="text-align: center;">[具体的な状況・取組内容]</p> リスクや体調の予後予測を踏まえ緊急時の対応など含めた計画を立てている。							
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	1	13	4			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
<p style="text-align: center;">[具体的な状況・取組内容]</p> 朝夕のミーティング時に各利用者の状況変化を早期に多職種で把握し迅速に反映している。							
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	3	15				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
<p style="text-align: center;">[具体的な状況・取組内容]</p> 利用者・家族の希望に沿い柔軟に対応できている。 ・定期的に、家族に各利用者の状況報告を行い、その都度家族の状況も把握している。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	6	11	1			<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主治医訪問時は看護師が状況を伝えている。 ・担当ケアマネが各主治医へ「照会」により主治医の指示や意見を確認している。また主治医の「指示書」に対し毎月報告書を届けている。 							
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	3	15				<p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うこ</p>
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有が柔軟に行われている。 ・医療ニーズの高い利用者には看護師の指導、支援を仰ぎながらケアの実践を行っている。 ・それぞれの専門性を生かし、各職種が協力し合いケアに当たっている。 							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 とが重要です
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
20	○ 利用者等の状況について、 介護職と看護職が互いに情 報を共有し対応策を検討す るなど、両職種間の連携が 行われている	5	13				✓ 「介護職と看護職の情報共有お よび対応策の検討」について、充 足度を評価します
		② 看護職から介護職への情報提供および提案					
21	○ 看護職から介護職に対し て、疾病予防・病状の予後予 測・心身の機能の維持回復 などの観点から、情報提供 や提案等を行っている	7	10	1			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介 護職への情報提供や提案等」につ いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割 の1つとして期待されます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	11	6		✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します	
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・利用開始前に各サービスの趣旨、特徴等を十分に説明し理解を得て契約している。 ・様々な利用法を提案し、また質問や不安点などその都度対応し理解を得ている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	14	3		✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します	
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・各担当ケアマネがケアプランを作成し説明同意を得ている。 ・利用者・家族が質問しやすい環境づくりもかかさずおこなっている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	14	1			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護師が訪問し、指導に当たります。 ・家族の理解度に合わせ繰り返し説明・指導を行った。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人(意思の決定・表示ができない場合は家族等)の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	4	12	2			✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・状態の変化や重度化した場合、家族に状態の説明を行い主治医へ連絡し急変時に早急に対応できるよう支援している。 ・ACPについて主治医・家族と話し合い同意を得ている。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	2	13	3			✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・利用開始時より、病状・病態を理解して頂き予測される状態の変化やリスクを伝えている。 ・家族へ定期的に状況を報告し現在の病状と、発生し得るリスクを説明し対応策等の検討・相談を行い情報の共有ができている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	4	12	2			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	4	13	1			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性のある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	6	10	2			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	6	12				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	2	10	4	2		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	6	7	3	2		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		2	14	2		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している						<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 の視点から、充足度を評価します
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている		2	8	8		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている		1	3	14		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できていな い		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	4	11	3			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<p style="text-align: center;">[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ態勢は整っており、積極的に受け入れができる。 ・「看取り」の利用者の受け入れ予定時にミーティング等にて病状の説明・これからの経過予測等話し合い全職員との情報の共有を図る。 							
<p>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</p>							
<p>① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解</p>							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		5	9	4		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全
<p style="text-align: center;">[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における看多機の役割を理解しているが、全職員が地域包括ケアシステムを明確に理解するには至っていない。 ・研修等で取り上げ地域包括ケアシステムの理解を深めていく。 							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	3	10	4	1		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		5	5	8		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します。今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していく

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		8	5	4		<p>どの役割も期待されますそのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 5 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 6 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 5 4. 利用者の1/3には満たない 2 [具体的な状況・取組内容] 状態に応じサービス提供内容を変更し、迅速かつ的確な対応ができています。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 9 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 9 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない ・本人・家族への説明と必要時の対応により安心した在宅生活を継続して頂いている。 ・24時間看護師による連絡体制が確立しており迅速な対応ができています。		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 9 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 6 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 1 5. 看取りの希望者はいない 2 <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 在宅での見取り体制はできているが現在利用者はいない。		✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」